

2012年3月期  
第2四半期決算補足資料

2011年11月4日  
ブックオフコーポレーション株式会社

上期は経常利益、純利益が過去最高益を更新。

売上高36,738百万円(前年同四半期比1.8%増)、経常利益1,604百万円(同70.1%増)、  
四半期純利益783百万円(前年同四半期は純損失320百万円)

※四半期純利益の前年比大幅増加は前期計上の「資産除去債務会計適用に伴う影響額」がなくなったことが主な要因

計画に対して経常利益が+504百万円、純利益が+383百万円と上回る。

主な要因は、前期出店店舗の伸びや今期出店店舗の立ち上がり、オンライン事業の収益性向上。大型店出店時期変更等に伴う経費の期ズレも含まれる。

新規出店の業績は好調。通期の出店は期首計画通りの見通し。

成長ドライバと位置付けている「BOOKOFF SUPER BAZAAR(BSB)」は、上期に3館出店、下期は2館の出店決定(うち1館は10/20オープン済)、通期は計画通り5館を予定。

通期経常利益見通しを37億円に上方修正(11/2発表済み)。

BSB出店時期変更など期ズレ経費3億円が下期に影響することを考慮し、通期業績は経常利益37億円(期首計画差+2億円)、純利益17億円(同+1億円)を見込む。

## 第2四半期(4~9月) 連結業績

### 連結損益計算書

単位:百万円	2011/3 2Q累計	売上比	2012/3 2Q累計	売上比	前年比	計画差	要因
売上高	36,090	—	36,738	—	101.8%	△361	前期新店ののびしろ・今期新店分が増収寄与 既存店はCD・DVDの売上減や、9月の2度にわたる 大型台風の影響により減少
売上総利益	20,335	56.3%	21,061	57.3%	103.6%	—	粗利率前年差+1.0%pt 粗利向上施策の効果発現
販売管理費	19,609	54.3%	19,620	53.4%	100.1%	—	販管費比率前年差△0.9%pt、金額はほぼステイ Tポイント費用剥落と店舗運営費抑制が寄与
営業利益	725	2.0%	1,441	3.9%	198.7%	+441	粗利率向上と販管費抑制が寄与し営業利益・経常 利益ともに大幅増益 (純利益と共に2Q過去最高益)
経常利益	943	2.6%	1,604	4.4%	170.1%	+504	ただし計画差では下期への費用期ズレが3億円含 まれているため(P5~6)実質上ブレは+2億円
特別利益	17	0.0%	163	0.4%	—	—	前期2Qの特損には「資産除去債務会計適用に伴う 影響額」626百万円と新POS展開に伴う旧POSリ ース解約損76百万円等を含む
特別損失	1,058	2.9%	304	0.8%	—	—	
四半期 純利益	△320	△0.9%	783	2.1%	—	+383	経常利益の増加と資産除去債務会計基準に伴う 影響額等特損がなくなったことで大幅増益

## 第2四半期(4~9月) 連結業績

### セグメント別実績

#### 売上高

単位:百万円

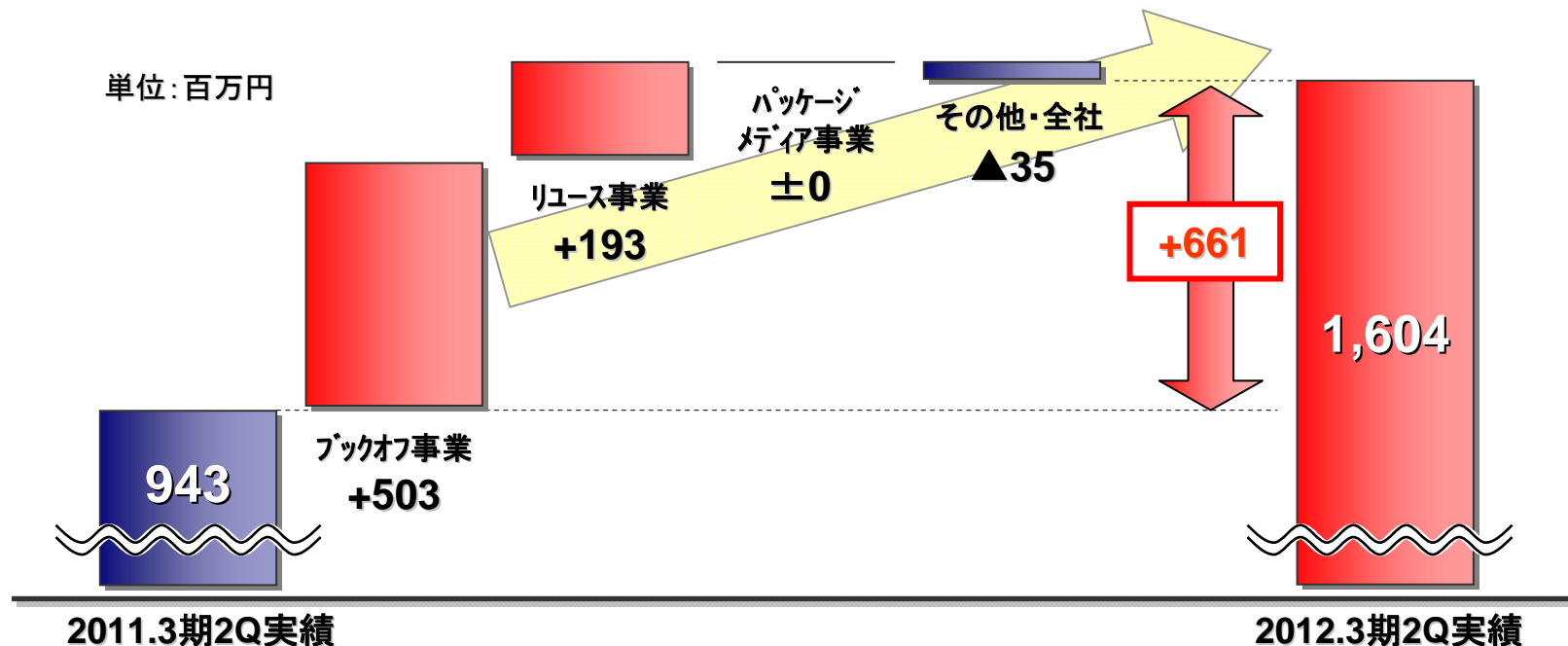
	2011/3 2Q累計	構成比 利益率	2012/3 2Q累計	構成比 利益率	前年比	要因
ブックオフ事業	24,948	69.1%	25,634	69.8%	102.7%	【ブックオフ事業】 新規出店やFCからの店舗譲受け分、オンライン売上の増加が寄与、既存店はCD・DVDの売上減や9月の大型台風の影響等により減少
リユース事業	4,475	12.4%	4,933	13.4%	110.2%	【リユース事業】 BSB新規出店が増収寄与、既存店は前年に行ったセール等の反動もあり前年同水準
パッケージメディア事業	6,383	17.7%	5,949	16.2%	93.2%	【パッケージメディア事業】 新刊書店既存店は夜間売上減少、不採算店舗を閉鎖
その他	283	0.8%	220	0.6%	78.0%	TSUTAYA既存店は競合環境が厳しい中で減少
全社・調整	-	-	-	-	-	
合計	36,090	100.0%	36,738	100.0%	101.8%	

#### 営業利益

ブックオフ事業	2,091	8.4%	2,584	10.1%	123.6%	【ブックオフ事業】 前期新店伸びとTポイント費用剥落、オンライン増収が寄与、既存店は売上減を粗利向上とコスト抑制でカバー
リユース事業	△363	△8.1%	△156	△3.2%	-	【リユース事業】 前期新店の伸びとTポイント費用剥落、衣料注力による粗利率向上(前2Q比+1.3%pt)により赤字が大幅に縮小
パッケージメディア事業	△11	△0.2%	14	0.2%	-	【パッケージメディア事業】 売上減も黒字転換、粗利率改善とコスト削減、不採算店閉鎖が寄与
その他	34	12.3%	△37	△16.8%	-	
全社・調整	△1,025	-	△963	-	-	
合計	725	2.0%	1,441	3.9%	198.7%	【全社】 前期貸引インパクト剥落等

## 第2四半期(4~9月) 経常利益増減要因(前年差)

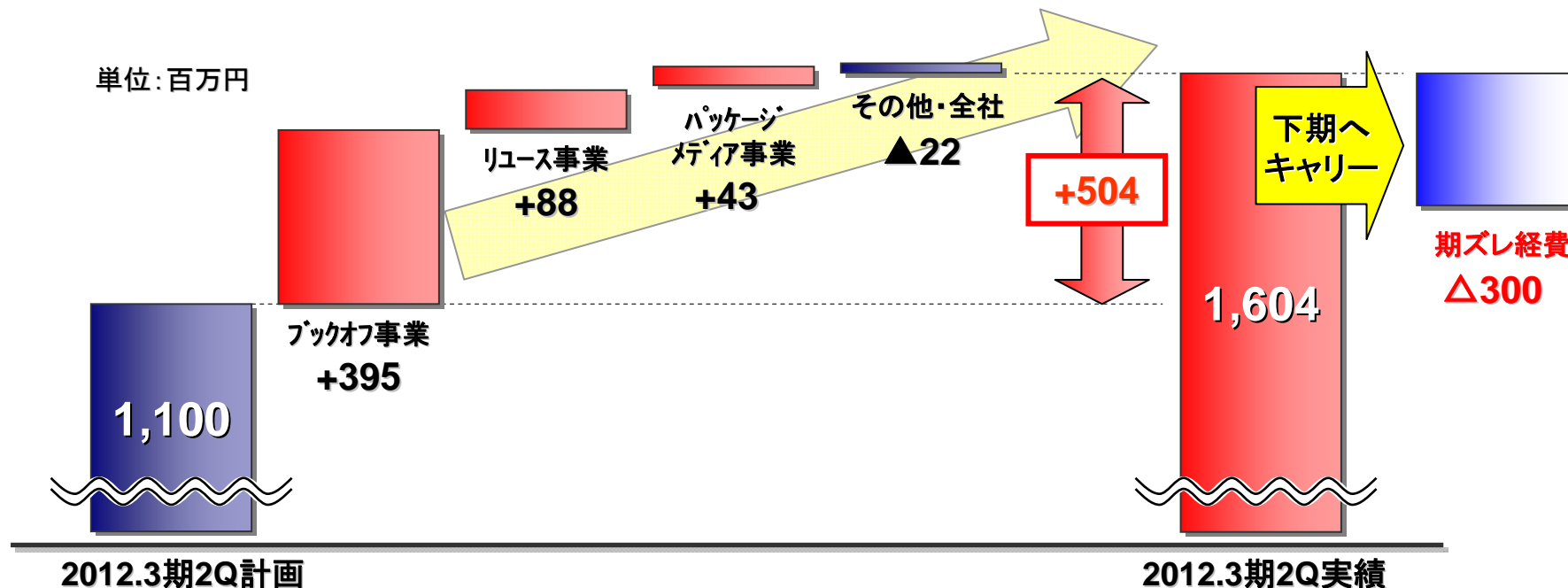
前期新店ののびしろとTポイント運営費の剥落、オンライン事業の収益性向上が寄与。リユース事業においても粗利率改善等が反映、減益要因はほぼ予定通りに進捗。



セグメント	増減	増減要因
ブックオフ事業	+503	既存店+5(売上減を粗利向上とコスト抑制でカバー)、前期新店+243、新店△36、Tポイント運営費等+298、オンライン+107、海外+68、FCチェーン強化△86、新POS展開△84、その他△12
リユース事業	+193	既存店+84(粗利率向上・先行人件費は新店へ)、前期新店+137、新店△77、Tポイント運営費等+61、FCチェーン強化△10、その他△2
パッケージメディア事業・その他・全社	△35	前期計上貸引+52、為替差損△11、その他△76
合計	+661	

## 第2四半期(4~9月) 経常利益増減要因(計画差)


主に新店(前期のびしろ・今期立ち上がり)とオンライン事業の収益性向上が寄与。  
 但し計画上ブレには「期ズレ経費」(次頁)が含まれるため、実質計画差は+200百万円。



セグメント	増減	増減要因
ブックオフ事業	+395	前期新店+17、新店+37、オンライン+82、その他+9、期ズレ経費(新店・修繕等)+250
リユース事業	+88	前期新店+21、新店+27、その他△10、期ズレ経費(新店)+50
パッケージメディア事業・その他・全社	+21	TSUTAYA既存店+33、為替差損▲33、その他+21
合計	+504	

## 第2四半期(4~9月) 期ズレ経費について

当初上期の出店予定であった「BSB八王子みなみ野」「BOなんば戎橋(都市型大型店)」が下期にずれ込んだため、出店費用△2.1億円。その他、修繕費等で△0.9億円を含む。

2012.3期	1Q	2Q	3Q	4Q	計
	栄スカイル 仙台さくら野(BSB化)	248号西友岡崎 八王子みなみ野	前橋リリカ <u>八王子みなみ野</u>		5
BOOKOFF 都市型大型店		なんば戎橋	<u>なんば戎橋</u>		1
その他	伊丹大鹿(BO)	菊名駅東口(BO)			2

(参考)2011.3期	1Q	2Q	3Q	4Q	計
		大宮ステラタウン	409号川崎港町 荒川沖		3
BOOKOFF 都市型大型店	パサージュオ西新井		新百合丘オーパ 横浜ビブレ		3
その他	ザ・ビッグ昭島(BO+) ロッセティ錦糸町(BO)				2

※リプレイス・業態変換(追加)・譲受けは除く

下期は郊外型の大型BSBを2館出店予定であり、今期出店合計は5館(期首見通し通り)。BSBの総売場面積は前期比で45%増、3年で181%増となる見通し。

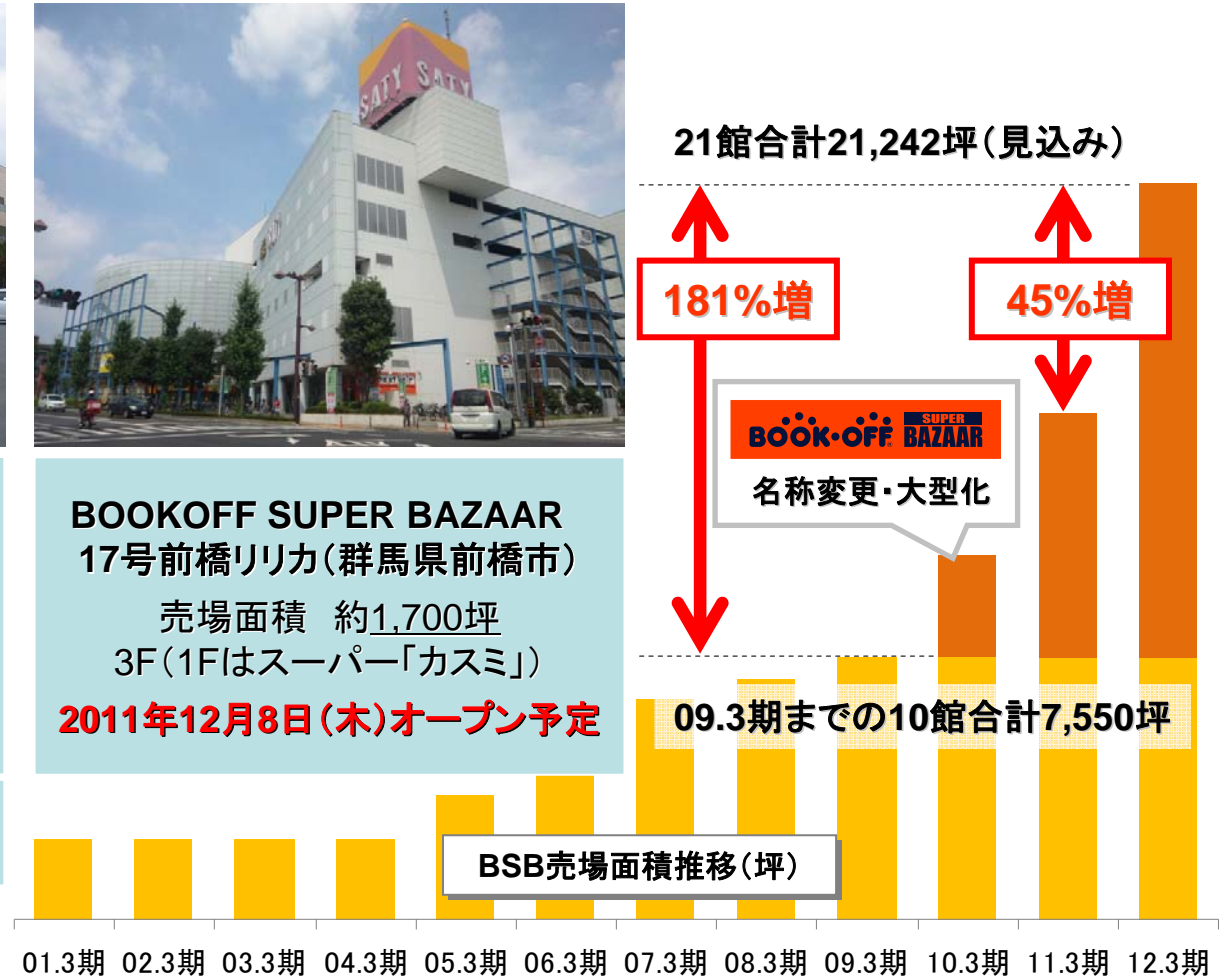


**BOOKOFF SUPER BAZAAR**  
 八王子みなみ野(東京都八王子市)  
 売場面積 1,709坪(うちFC185坪)  
 2F(1Fはスーパー「sanwa」)  
**2011年10月20日(木)オープン**

FCとの共同出店(初)



**BOOKOFF SUPER BAZAAR**  
 17号前橋リリカ(群馬県前橋市)  
 売場面積 約1,700坪  
 3F(1Fはスーパー「カスミ」)  
**2011年12月8日(木)オープン予定**



## 2012年3月期 通期業績見通し

上期実績を踏まえ、利益について期ズレ要素を除いた期首計画比の実質上ブレ分を通期見通しに反映、経常利益37億円(期首計画差+2億円)・純利益17億円(同+1億円)とする(11月2日公表済み)。

経常利益では5期ぶりの過去最高益更新となる。

単位:百万円	2012/3期 期首予想	2012/3期 修正予想	構成比	前年比	増減
売上高	77,000	76,000	100.0%	103.6%	△1,000
営業利益	3,200	3,400	4.5%	123.7%	+200
経常利益	3,500	3,700	4.9%	117.2%	+200
当期純利益	1,600	1,700	2.2%	299.2%	+100
EPS(円)	88.33円	93.18円			+4.85円

### 下期の見通し

#### (売上高)

- ・ 上期までの既存店売上前年比のトレンドや新店期ズレを反映し、期首計画を減額

#### (経常利益)

- ・ 上期からの費用の期ズレが下期に反映(新店・修繕等△3億円)
- ・ 売上高の見通し減額については、上期発現したコスト抑制要素が期首計画には反映されていないため、利益に与える影響は軽微

## 見通しに関する注意事項



本プレゼンテーション資料に記載されている計画、戦略、財務的予測のうち、歴史的事実でないものは、当社が現在入手可能な情報に基づき判断した将来の見通しに関する記述であり、経営環境等の変化により内容が大きく変動する可能性があります。